

Innovative Technologies 2014 応募要領

1. 事業の目的

我が国のコンテンツ産業の発展のためには、コンテンツ技術の振興により、映像（映画、アニメ）、音楽、ゲーム、書籍等のコンテンツ産業分野における製品・サービスの魅力をさらに高めるとともに、その技術を応用することで医療や製造業など他の産業分野へと市場を拡大することが重要となります。

Innovative Technologies（以下、本事業）は、経済産業省で取りまとめている技術戦略マップで示されている成長シナリオに基づき、その実現に大きな貢献が期待できる新技術を広く公募により選出し、国際的な産学連携の場であるデジタルコンテンツ EXPO（開催期間：2014年10月23日（木）～26日（日）、場所：日本科学未来館）において社会へ発信するものです。

2. 応募対象・資格

- ・ 本事業は、「技術戦略マップ 2012」コンテンツ分野の技術ロードマップに示された技術が主な対象となります。ここで言う技術は、ソフトウェアやアプリケーションを含みますが、製品・サービスは対象とはなりません。
- ・ 本事業に応募できるのは、日本国内に事業所を置く企業または大学、研究機関、団体です。複数の法人・団体によるグループでの応募も可能です。
- ・ 審査に必要な情報が提供でき、かつ2014年8月31日時点で公開可能な技術に限ります。なお、採択者発表日に当該技術を公表できない場合は、デジタルコンテンツ EXPO2014 開催初日（2014年10月23日（木））まで公表を延期することができます。
- ・ 採択された場合は、デジタルコンテンツ EXPO2014 において、当該技術の展示及び特別賞選考委員へのプレゼンテーションを行っていただきます。
- ・ 本事業に採択された際、応募申込書に記載いただいた団体名、および応募する技術の情報（名称、内容、画像データ等）に関しては、WEB サイトやリーフレット等において公開させていただきます。その他公開する内容については別途協議の上、定めるものとします。ただし、採択されなかった場合は、応募者の名称及び応募の内容は公開されません。

- ・ 応募・審査に係る費用および、採択された場合のデジタルコンテンツ EXPO2014 の出展料はかかりません。（展示に係る会場までの展示物の輸送費、設置費、説明員の人件費等は採択者の負担となります）

※技術戦略マップ(コンテンツ分野)については以下をご参照ください。

http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/contents/downloadfiles/120307-2.pdf

※これまでの本事業採択技術については以下をご参照ください。

2012年度 <http://www.meti.go.jp/press/2012/09/20120910002/20120910002.html>

2013年度 <http://www.meti.go.jp/press/2013/09/20130910001/20130910001.html>

3. 応募方法

応募申込書に必要事項を記入し、応募資料を添えて下記まで郵送または電子メールにて送信ください。郵送で応募される方は印刷したものとデジタルデータの両方を提出ください。

〒102-0082 東京都千代田区一番町 23-3 日本生命一番町ビル LB
一般財団法人デジタルコンテンツ協会 担当：瀬尾、大森
e-mail：innovtech@dcexpo.jp

4. 応募資料

- ・ 応募申込書（必須）
- ・ 当該技術の内容がわかる写真または図（必須）
 - 広報に利用するための画像データを1枚お送りください。画像データは、350dpi以上の解像度で長辺が1500ピクセル以上、10MB以下、JPG、PNG形式のものでお願いいたします。他に、技術の内容を伝えるために必要な画像データは、別途添付資料としてお送りください。
- ・ 当該技術の内容がわかる1分程度の映像（推奨）
 - 映像データは、MPEG2、QuickTime、WMVの形式で、Windowsでの再生可能なもの
- ・ 当該技術の内容がわかる電子データの資料（任意）
 - － 各種説明資料
 - － 報道記事等第三者によって書かれた資料 等

5. 応募締切

2014年7月31日(木)12時(必着)※事務局にて受け取った旨の通知をいたします。通知をもって必要書類を受領したこととさせていただきます。

6. 応募後の流れ

応募申込



審査委員会

コンテンツ技術に関する有識者による審査を行い、20件程度を採択します。

(審査の内容は非公開とし、審査結果は応募者に直接ご連絡します)



採択者発表

デジタルコンテンツ EXPO2014 の公式ウェブサイト、および報道機関へのリリースによって発表します。



デジタルコンテンツ EXPO2014 での展示

デジタルコンテンツ EXPO2014 の会場に会期中(4日間)展示(搬入・搬出、来場者への説明、展示物の運営・管理等)を行って頂きます。

また、会場内に設置されたセンターステージにおいて、7分程度のショートプレゼンテーションを実施して頂きます。

【展示にあたっての留意事項】

- ・ 展示スペースは3m×3mを基本とします。
- ・ 基本となるコンセント、展示台、サインは主催者が提供します。
- ・ パネルや模型、映像装置等の持ち込みは自由ですが、他の展示者とのバランスを考慮し、内容を調整する場合があります。
- ・ 展示場所には説明員が常駐していただきます。
- ・ 詳細については、別途定める参加ガイドに従っていただきます。



デジタルコンテンツ EXPO2014 での特別賞選考会

初日(10月23日)に特別賞選考委員へのプレゼンテーション(展示場所での実演・説明)を行って頂きます。(特別賞選考会の内容は非公開とします)

【特別賞(各1件程度)】

- ・ Industry: 特にデジタルコンテンツ分野以外の産業分野への波及・応用が期待される技術
- ・ Culture: 特に文化・芸術分野への波及・応用が期待される技術

- ・ Human：特にライフサイエンス分野への波及・応用が期待される技術
- ・ Ecology：特に環境分野への波及・応用が期待される技術



特別賞の発表、贈賞式

初日の特別賞選考会の後、デジタルコンテンツ EXPO2014 の会場において、特別賞の発表および贈賞式を実施します。

7. Innovative Technologies 2014 の評価基準

- ・ 先進性・革新性
類似する事例がなく、斬新なアイデアによって新たな技術やサービスの可能性を切り拓いているか
- ・ 産業化・市場創出の可能性
新たな産業化、市場創出の可能性を有するか
- ・ 技術的汎用性
他の技術に広く応用される可能性を有するか
- ・ 技術戦略マップとの整合性
技術戦略マップ 2012（コンテンツ分野）の「コンテンツ分野の技術ロードマップ」に示される 56 分野のうち、特にどの分野にあてはまるのか。またその技術分野の開発の方向性に基づき、その実現に大きな貢献が期待できるか
- ・ 表現の新規性
従来にない独創性や斬新さを有する表現を実現しているか

8. 特別賞の選考基準

他分野への波及・応用の期待

当該技術を利用することで、デジタルコンテンツ分野以外の産業分野、文化・芸術分野、ライフサイエンス分野、環境分野への波及・応用が期待できるか

(参考) 「技術戦略マップ 2012」コンテンツ分野のコンテンツ分野の技術ロードマップ
 に示された 56 分野の技術

1 撮影・スキャン	20 検索技術	39 コンテンツ自動変換技術
2 オーサリング	21 圧縮技術	40 ゲーム制作技法の応用技術
3 プロシージャル技術	22 蓄積メディア	41 パーソナルファブリケーション
4 人工知能	23 データベース技術	42 実世界指向コミュニティ
5 3DCG 技術	24 個人情報保護技術	43 インフォーマルコミュニケーション
6 e-Learning (電子学習)	25 トレーサビリティ	44 空間共有
7 超高精細映像 (スーパーハイビジョン) 技術	26 メタデータ・タギング	45 ユーザーインタフェース技術
8 ナチュラルビジョン	27 IC タグ	46 コンテンツ評価技術
9 高臨場感音響システム	28 電子マネー	47 位置情報技術
10 大型映像システム	29 自動監視	48 ライフログ
11 立体 (3D) 映像技術	30 匿名化技術	49 感情センシング
12 サービスロボット技術	31 Web の重要度識別システム	50 ジェロンテクノロジー
13 VR (人工現実感) ・AR (拡張現実) 技術	32 Web テクノロジー	51 画像認識・画像合成
14 電子書籍技術	33 個人認証技術	52 自動健康診断・生体診断
15 デジタルサイネージ	34 著作権管理技術 (DRM)	53 ユーザーモーションキャプチャー技術
16 ライブストリーミング	35 エンドユーザープログラミング	54 動態センシング
17 データ放送	36 音声合成・音声認識	55 感性工学
18 データ変換・データ転送	37 オンラインコミュニケーション技術	56 エージェント技術
19 ネットワーク技術	38 自動翻訳	